

県指定文化財 18 件



1 小野道風誕生伝説地



2 木造大日如来座像



3 梵鐘



4 小木田の棒の手



5 銅製仁王像(2 軀)



6 礼盤(2基)



7 紙本墨画縄衣文殊画像



8 絹本着色呂洞賓の図



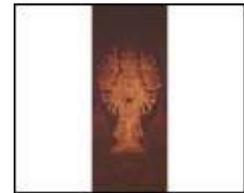
9 内々神社庭園



10 絹本着色兜率天曼荼羅



11 絹本着色天台大師像



12 絹本着色千手観音菩薩像



13 木造十一面観音立像



14 白山神社古墳
／御旅所古墳



15 麗花集断簡(八
幡切)つとめてまへの



16 内々神社社殿(3
棟)附棟札 11 枚



17 鉄釣灯籠 宝
治三年銘



18 木造阿弥陀如
来坐像

詳細については、次ページにあります。

1 小野道風誕生伝説地

(おののとうふうたんじょうでんせつち)



【区分】

県指定

【種別】

史跡

【時代】

—

【サイズ】

—

【所有者等】

春日井市

【所在地】

松河戸町 5 丁目 9-1

小野道風は平安時代中期の書の名人で、藤原佐理(ふじわらのさり)、藤原行成(ふじわらのこうぜい)と共に三跡(さんせき)と呼ばれています。道風は、それまでの中国の硬い書風から、優雅でやわらかい日本独特の書風を新しく生み出したことで有名な人物です。言い伝えによれば、父葛絃(くずお)が尾張国春日部郡松河戸(現在の春日井市松河戸町)に滞在しているとき、里人の娘との間に生まれ、幼少期をこの地で過ごした後 10 歳頃に父とともに京に上り、12 歳で天皇に書を献上したといわれています。昭和 56 年(1981)松河戸町に全国的にも数少ない書専門の美術館「道風記念館」が道風公園の隣に開館し、小野道風に関する資料や貴重な書作品が収蔵・展示されています。

[三跡]

平安時代中期に活躍した 3 人の書の名人。

2 木造大日如来座像

(もくぞうだいにちによらいざぞう)



【区 分】

県指定

【種 別】

彫刻

【時 代】

平安時代

【サイズ】

像高 79.5cm

【所有者等】

麟慶寺

【所在地】

麟慶寺

(牛山町 322)

牛山町にある麟慶寺は臨済宗妙心寺派の寺院です。大日如来は真言密教の本尊で、宇宙を照らし万物を育む太陽の化身であり、金剛界(智)と胎蔵界(理)の2つの世界の中心仏でもあります。本像は左手の人差指を右手の拳で握った智拳印(ちけんいん)を結んでいることから、金剛界の大日如来で平安時代後期の作です。一木造の像で、かつては着色されていました。台座裏に「味岡庄片山郷三台寺」の銘があり、寺所有の書状には、古くは麟慶寺を三台寺と称したという記述があります。

[密教]

平安時代初期に空海や最澄らが中国から伝えた仏教で、真言宗（真言密教＝東密）と天台宗（天台密教＝台密）がある。

[金剛界]

大日如来の智徳をあらわす世界。

[胎蔵界]

大日如来の慈悲をあらわす世界。

[智拳印]

考える動作を示すもの。

[一木造]

木像の頭部と胴部を一本の木から彫り出す技法。

3 梵鐘

(ぼんしょう)



【区 分】

県指定

【種 別】

工芸

【時 代】

室町時代

【サイズ】

高 148.5cm、口径 80.5cm

【所有者等】

林昌寺

【所在地】

林昌寺

(林島町 105)

林島町にある林昌寺は臨済宗妙心寺派の寺院です。この梵鐘(ぼんしょう)をつるす竜頭(りゅうず)は双竜形で、鐘身は緩やかな曲線を下部にのばしてふくらみを持たせています。中帯はやや下めで撞座(つきざ)にはクルミ型の弁がつき、4区に4段4列の乳を配しています。銘文には「熱田宮神宮寺 延徳元年十月十三日 願主 正阿弥 檀那 浅井備中道慶庵主 大工 藤右衛門尉 同刑部大夫 同彦右衛門尉」と書かれており、もとは熱田神宮寺にあったもので、延徳元年(1489)に制作されたことがわかります。堂々とした風格を備え、美術的にも歴史的にも価値ある梵鐘です。

[撞座]

鐘をならす所。

4 小木田の棒の手

(おぎたのぼうの手)



【区分】

県指定

【種別】

無形民俗

【時代】

明治時代

【サイズ】

【所有者等】

小木田町源氏天流関田棒の手保存会

【所在地】

小木田神社

(小木田町 147)

棒の手は、棒や刀(木刀)を使う武術的な民俗芸能で、尾張と三河の旧国境に多くの流派が伝承されています。源氏天流とは、清和天皇の子孫である源義家(みなもとのよしいえ)を流祖とするもので、戦国時代の実戦的な古武道の型をそのまま伝えており、とても豪快な点が特徴です。明治時代になって現在の名古屋市守山区から春日井市の旧関田村(現在の小木田町)に伝わりました。小木田の棒の手は、源氏天流の棒の手復興に努力した河野萬三郎義次、加藤平輔義平などが明治 21 年(1888)9月 23 日に相伝目録3巻及び免状 1 巻を小木田神社に奉納したことにはじまります。地元の「小木田町源氏天流関田棒の手保存会」では、保存伝承活動を行っており、毎年、地域の氏神である小木田神社と貴船神社、名古屋市にある熱田神宮の祭礼に棒の手を奉納しています。

[源義家]

平安時代後期に活躍した武将。別名八幡太郎義家。

5 銅製仁王像(2軀)

(どうせいにおうぞう(2く))



【区 分】

県指定

【種 別】

彫刻

【時 代】

鎌倉時代

【サイズ】

阿形像 14.7cm、吽形像 15.0cm

(総高・台座共)

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人によって開山されました。仁王は金剛力士とも呼ばれ、開口の阿形(あぎょう)像と閉口の吽形(うんぎょう)像の一对で、多くは守護神として寺門の左右に立っていますが、本像は類例の極めて少ない銅製のミニチュア像です。両像とも頭頂に髻を結び、上半身は裸で、下半身には裙と腰布を着け、左手は握り、右手は開いて、裸足で岩座の上に立っています。12 cmほどの像高にもかかわらず、隆々とした筋骨や裳も丁寧に表現されています。

6 礼盤(2基)

(らいばん(2基))



【区分】

県指定

【種別】

工芸

【時代】

室町時代

【サイズ】

阿闍梨用高 18cm、69cm 四方

受者用高 21cm、67cm 四方

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山です。嘉暦3年(1328)慈妙上人によって開山され、僧侶達が修行や位を受ける場として栄えました。礼盤は、修法のときなどに導師が座る方形の座で、密蔵院には2基が伝えられています。両礼盤とも猫脚形で、1基には「正覚壇阿闍梨(しょうがくだんあじゃり)礼盤」、裏面に文明18年(1486)、もう1基には「正覚壇受者礼盤」、裏面に天文17年(1548)と墨書されています。このように制作時期が明らかで阿闍梨用(教える人のもの)と受者用が揃って保存されているのは極めて貴重です。

[阿闍梨]

密教の僧侶の位のひとつで、非常に地位が高い。ここでは、灌頂の教授者を意味する。

7 紙本墨画縄衣文殊画像

(しほんぼくがじょうえもんじゅがぞう)



【区 分】

県指定

【種 別】

絵画

【時 代】

室町時代

【サイズ】

タテ 76cm × ヨコ 31cm

【所有者等】

瑞雲寺

【所在地】

瑞雲寺

(神領町1丁目11-4)

神領町にある竜光山瑞雲寺は室町時代末の16世紀中頃に創建されたという伝承をもつ臨済宗妙心寺派の中本山です。本図は、有髪の童子が蒲を身にまとい、経冊を手にして立っている姿を描いたものです。図上部には「面童子の如く、髪雲の如し。草を編んで衣と為し、線路勻し。膊(うで)をあらわにして経を持つに、此の意を知る、果して然り、文質自ずから彬々たり。」(原文は漢文)の賛文があり、永楽4年(1406)と3月日天童山希顔(きがん)拝賛と記されています。

[賛文]

絵に付けられる詩や歌で、その絵にちなんだ内容となっている。

8 絹本着色呂洞賓の図

(けんぽんちゃくしよくろどうひんのず)



【区 分】

県指定

【種 別】

絵画

【時 代】

室町時代

【サイズ】

タテ 138.5cm × ヨコ 74cm

【所有者等】

瑞雲寺

【所在地】

瑞雲寺

(神領町1丁目11-4)

神領町にある竜光山瑞雲寺は室町時代末の16世紀中頃に創建されたという伝承をもつ臨済宗妙心寺派の中本山です。呂洞賓は中国唐時代の仙人で、400歳まで長生きしたという伝説があります。この図では、髪を双髻(そうけい)に結び、ひげを蓄え、眼を大きく開き、左手にひょうたんを捧げた姿で松の木の下に座っています。作者の銭穀(せんこく)は、中国明時代の絵師で、その画風は躍動感と品格にあふれるものです。

[双髻]

頭の上で、髪をふたつに分けて結んだ髪型。

9 内々神社庭園

(うつつじんじゃていえん)



【区 分】

県指定

【種 別】

名勝

【時 代】

南北朝・江戸時代

【サイズ】

—

【所有者等】

内々神社

【所在地】

内々神社

(内津町 24、25-2)

内津町にある内々神社は、平安時代前期に編さんされた「延喜式神名帳」(えんぎしきしんめいちょう)に記載されている神社で、主祭神は尾張氏の建稲種命(たけいなだねのみこと)で、これに日本武尊、宮簀姫命(みやずひめのみこと)を配しています。廻遊式林泉型の庭園は、社伝によると南北朝時代の名僧夢窓疎石(1275-1351)の作と伝えられていますが、石組等の様式から江戸時代に作庭されたとの見解もあります。庭園は社殿の裏側にあつて、少しの平地と裏山の急斜面を利用して南北に造られ、自然の岩を巧みに取り入れ、その背後には高くそびえる天狗岩が影向石(神仏が来臨して一時姿を現す石)をなしています。その下に掘られた丸池には出島・中島が設けられ、石組や庭樹が山の斜面や池畔を美しく飾っています。

[延喜式]

平安時代前期に編さんされた法典。

[夢窓疎石]

天竜寺を開山するなどした室町時代初期の禅宗の高僧。後醍醐天皇などの信任が厚く「国師」号を贈られました。

10 絹本着色兜率天曼荼羅

(けんぽんちゃくしょくとそつてんまんだら)



【区 分】

県指定

【種 別】

絵画

【時 代】

鎌倉時代

【サイズ】

タテ 152.3cm × ヨコ 42.7cm

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。本図は、弥勒菩薩が天空の兜率天に居る情景を描いた兜率天曼荼羅で、重層の楼門の両側に朱塗りの廻廊が伸び、門の奥には群青色の宝池が広がっています。中央には天人・天女に囲まれた弥勒菩薩が六角台座の上の蓮華座に座し、その背後に宝樹が描かれ、図上部には宝塔が立ち、塔内には五輪塔が安置されています。彩色も朱、群青、緑青、金泥等を用いた華やかな作品です。

[兜率天]

欲界の第四天。

11 絹本着色天台大師像

(けんぽんちゃくしよくてんだいだいしぞう)



【区 分】

県指定

【種 別】

絵画

【時 代】

鎌倉～南北朝時代

【サイズ】

タテ 89.5cm × ヨコ 55.3cm

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。本図は、中国隋時代の天台宗の開祖天台大師智顛(ちぎ)の肖像画で、頭頂に禅鎮(ぜんちん)が描かれた頭巾を被り、腹前で定印を結び、背付きの牀座(しょうざ)の上に結跏趺坐(けっかふざ)する姿が描かれています。由来ははっきりしませんが、裏面に残されている記録から享保年間(1716～1735)に補修がされたことが分かっています。智顛は智者大師とも呼ばれ、隋の文帝や煬帝(ようたい)の信任を受け、中国各地で天台宗の教えを広めました。また、多くの著作を残したことから、日本でも非常に高名な僧侶です。天台大師像で本図のように正面向きのものは少なく、装飾性に富み彩色も多様で、細部も丁寧に仕上げられており、天台大師像の貴重な作例といえます。

〔結跏趺坐〕

足の甲をそれぞれ反対の脚の大腿部にのせ、両足を組んで座ること。

12 絹本着色千手観音菩薩像

(けんぽんちゃくしよくせんじゅかんのんぼさつぞう)



【区 分】

県指定

【種 別】

絵画

【時 代】

鎌倉時代

【サイズ】

タテ 150.5cm × ヨコ 61.4cm

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。千手観音菩薩は、正式には千手千眼観自在菩薩といい、千本の手とそれぞれの手にひとつずつある慈眼によって人々を救う観音です。この千手観音は、頭上に更に10面の小さな顔があり、合掌している2本の手と様々な持物(じもつ)を持った40本の手を持つ一般的なものですが、千手観音だけを単独で描くものは少なく、画面いっぱい伸び伸びと描かれており、金泥や彩色を用いた優美で力強い画像です。鎌倉時代後期の作品と考えられ、江戸時代に修復した記録が残っています。

[持物]

人々の救済に使うための道具。

13 木造十一面観音立像

(もくぞうじゅういちめんかんのりゅうぞう)



【区分】
県指定
【種別】
彫刻
【時代】
平安時代
【サイズ】
像高 190cm
【所有者等】
密蔵院
【所在地】
密蔵院
(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人によって開山されました。十一面観音というのは変化観音の一つで、本像は密蔵院末寺の熱田神宮寺の如法院に伝来し、明治初期の神仏分離によって密蔵院に移されたといわれます。檜または榿(かや)と思われる針葉樹の一木造で、左手に華瓶(けびょう)を執り、右手を垂下し、右膝をゆるめて立っています。頭体部は奥行きのある造りで、渦文を交えた翻波式衣文(ほんばしきえもん)の表現など、平安時代前期のこの地方を代表する遺例です。

[一木造]

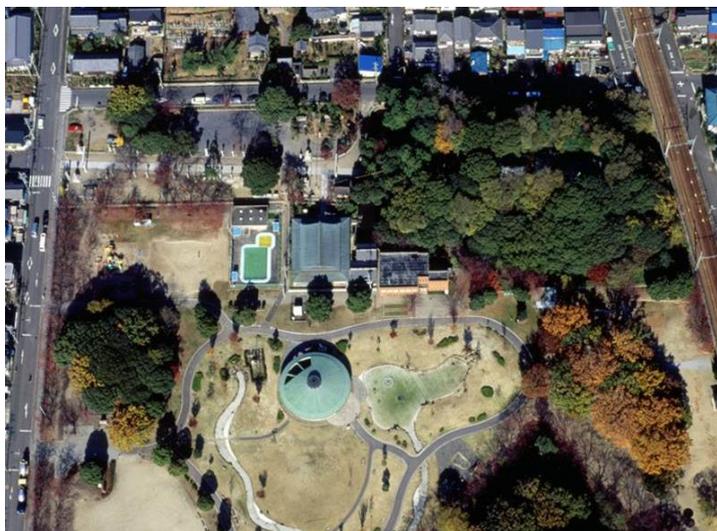
木像の頭部と胴部を一本の木から彫り出す技法。

[翻波式衣文]

大きな襞(ひだ)と小さな襞が一定の間隔を置いて交互に表れる衣の襞。

14 白山神社古墳／御旅所古墳

(はくさんじんじゃこふん／おたびしょこふん)



左が御旅所古墳、右上が白山神社古墳

【区分】

県指定

【種別】

史跡

【時代】

古墳時代

【サイズ】

白山神社古墳 墳長 84m

御旅所古墳 直径 31m

【所有者等】

白山神社

【所在地】

白山神社・二子山公園内

(二子町2丁目11-3、

二子町2丁目11-2)

味美地区には、二子山古墳(国指定史跡)を始め、白山神社古墳、春日山古墳の3基の前方後円墳があり、円墳の御旅所古墳や滅失した白山藪古墳(名古屋市北区)などを含め古墳時代中期から後期にかけての古墳群が形成されています。

白山神社古墳は墳長84mでその名のとおり墳頂に白山神社があり、周溝をめぐらしています。平成19年度に発掘調査が実施され、埴輪列が検出されました。出土した須恵器や埴輪から5世紀末葉～6世紀初頭の築造であると考えられます。

御旅所古墳は、直径31mの円墳で、墳丘上に祠があります。出土した須恵器や埴輪から5世紀末葉～6世紀初頭の築造で、埴輪の特徴から白山神社古墳に後出するものと考えられます。

[前方後円墳]

円形と四角形を組み合わせた鍵穴のような形をした古墳時代の墓。

[円墳]

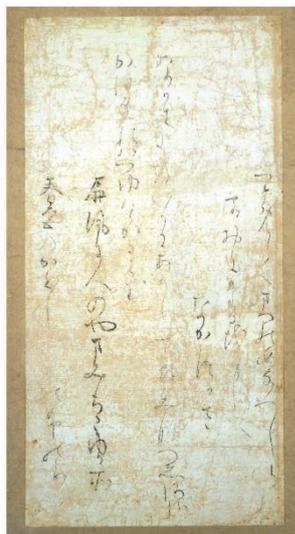
円形をした古墳時代の墓。

[周溝]

古墳の周りにめぐらせた溝。周濠ともよぶ。

15 麗花集断簡(八幡切)つとめてまへの

(れいかしゅうだんかん(やわたぎれ)つとめてまへの)



【区 分】

県指定

【種 別】

書跡

【時 代】

平安時代

【サイズ】

本紙タテ 24.8cm × ヨコ 12.7cm

【所有者等】

春日井市

【所在地】

道風記念館

(松河戸町 5 丁目 9-3)

これは、麗花集(れいかしゅう)という和歌集の断簡で、もとは冊子本でした。京都の男山八幡宮に所蔵されていたので、「八幡切」と呼ばれています。料紙は中国から輸入された唐紙(からかみ)で、唐草文様を雲母で刷り出しています。繊細でしかも筆力があり整った書風です。料紙・書風などから 11 世紀後半の書であると考えられます。麗花集は完全な写本が残っていないため、八幡切は国文学史上でも貴重な資料です。

[断簡]

古筆を切断したもの。

16 内々神社社殿(3棟)附棟札 11 枚

(うつつじんじゃしゃでん(3とう)つきたりむなふだ 11 まい)



【区 分】

県指定

【種 別】

建造物

【時 代】

江戸時代

【サイズ】

—

【所有者等】

内々神社

【所在地】

内々神社

(内津町 24)

内津町にある内々神社は、平安時代前期に編さんされた「延喜式神名帳」(えんぎしきしんめいちょう)に記載されている神社で、主祭神は尾張氏の建稲種命(たけいなだねのみこと)で、これに日本武尊、宮簀姫命(みやすひめのみこと)を配しています。社殿の建て方は、本殿と拝殿を中間の幣殿で連結したいわゆる「権現造」で、江戸後期の名工立川一族によって文化年間(1804-1817)に建立されたものです。拝殿は入母屋造(いりもやづくり)で、正面に向拝(ごはい)があり、向拝の唐破風(からはふ)と大屋根の中央に立ち上がる千鳥破風(ちどりはふ)が重なり、勢いが感じられる造りとなっています。建築様式や装飾豊かで立体的な素木の彫刻など近世神社社殿を代表する建築物です。

【延喜式】

平安時代前期に編さんされた法典。

【向拝】

社殿の正面階段の上に張り出したひさしの部分。

【唐破風】

屋根の装飾用の板。中央が盛り上がり左右水平となっているもの。

【千鳥破風】

屋根の装飾用板。三角形をしたもの。

17 鉄釣灯笼 宝治三年銘

(てつとりとうろう ほうじさんねんめい)



【区 分】

県指定

【種 別】

工芸

【時 代】

鎌倉時代 宝治三年(1249)

【サイズ】

高 31cm

【所有者等】

密蔵院

【所在地】

密蔵院

(熊野町 3133)

熊野町にある医王山薬師寺密蔵院は天台宗延暦寺派の中本山で、嘉暦3年(1328)慈妙上人(じみょうしょうにん)によって開山されました。

この六角形の鉄釣灯笼は、高度な鉄の鍛造(たんぞう)技術によって総体を形作り、火袋の羽目板に文様と銘文を透彫りしています。両扉には「寶治三年」「貳月上旬」の籠字銘を透かしており、

水平をなす笠や環台の形と菊座刻み、笠に比べた火袋の量感の豊かさなど、いずれも鎌倉時代の造形の特徴とみて差しつかえなく、銘のとおり宝治3年(1249)に製作、調進されたものと判断されます。

紀年銘をもち鎌倉時代半ばまで遡る鉄釣灯笼として、愛知県のみならず全国でも最古級の作例です。

【鍛造】

金属を熱して金槌(かなづち)で打ち延ばして制作する方法。

【火袋】

灯笼等の火をともしるところ。

【羽目板】

壁の同一平面に張った板。

【環台】

金属製の取っ手を取り付ける台。

【菊座刻み】

菊の花の形にした座金。

18 木造阿弥陀如来坐像

(もくぞうあみだによらいざぞう)



【区 分】

県指定

【種 別】

彫刻

【時 代】

平安時代 久安2年(1146)

【サイズ】

像高 81.5cm

【所有者等】

退休寺

【所在地】

退休寺

(大泉寺町 1028-4)

大泉寺町にある賜恩山退休寺は浄土宗の寺院で、創建したのは尾張藩士の小野沢五郎兵衛です。この阿弥陀如来坐像は尾張徳川2代目藩主の徳川光友より下賜されたと伝えられる、退休寺の本尊です。頭と体部を一材で造り前後で割る割矧造(わりはぎづくり)で、来迎印(らいごういん)を結び、結跏趺坐を組んでいます。平安時代に流行した定朝様の仏像ですが、衣紋の処理などに特徴的な点が見られます。像内には「願主僧永澄賀茂氏愛子等 奉造蹟所尾張国中嶋郡北条鶴嶋郷 久安二年十一月廿八日壬午奉始之」の墨書があり、愛知県内に伝わる平安時代の在銘像としては、2番目に古い像として位置づけられます。尾張国内で造立されたことも大変意義深い仏像です。

〔割矧造〕

一本の木からおおよその形を彫刻した後に前後に割り、内部をくりぬいてから再びもとのように接ぎ合わせる技法。

〔来迎印〕

左右の手ともに第1指、第2指を結び、右手を挙げ、左手を下げた形。阿弥陀如来が来迎するときの印相。